

神野直彦  
宮本太郎

水野和夫  
植田和弘  
駒村康平  
濱口桂一郎  
阿部彩  
広田照幸  
高端正幸

編

もう一つの日本  
への構想

自壊社会  
からの  
脱却

岩波書店

二〇〇八年十一月に財団法人・全労済協会において研究プロジェクト「希望のもてる社会づくり」研究会(主査・神野直彦東京大学名誉教授)が開始され、一年以上にわたって議論を重ねた。この研究会は、「希望のもてる社会」という、大きな、そして切実な切り口から、日本社会の現状とその将来を、学問領域を超えて総合的にとらえることを目指したものであった。

各領域で第一線に立つ研究者を集めた研究会で、日程調整には大いに苦勞したが、毎回の研究会ではきわめて刺激的で活発な討論が繰り広げられた。討論を重ねるうちに、私たちは、経済、環境、社会保障、教育、労働、政治などで先行きを不透明にしているそれぞれの領域での困難は、他の領域と新たな相乗的な関係の構築、持続可能な社会システムの形成によって打開するほかない、と考えるようになった。この研究会の成果である本書の各章は、こうした議論をふまえつつ、同時にそれぞれの領域の専門性を活かして、持続可能な社会を再建していく道筋を示したものである。

本書が成るにあたっては、多くの方にお世話になった。全労済協会の鷺尾悦也前理事長、村上忠行前常務理事、高木剛理事長、そして調査研究部の皆さんには、研究会が円滑にすすむ上で、様々なご配慮をいただいた。岩波書店の大橋久美氏と山本賢氏には、本書をまとめていく上でいろいろなアイデアをいただいた。記して謝意を表したい。

# 目次

はじめに——「自壊社会」の構造と希望のヴィジョン…………… 宮本太郎 …… v

第一章 新しい世界秩序・国際協調体制…………… 水野和夫 …… 1

——二二世紀は「陸と海のたたかい」——

一 「海から陸へ」への転換期——二二世紀の利子率革命 …… 1

二 近代モデルの限界と二二世紀の協調体制 …… 14

第二章 環境保全型発展の経済性…………… 植田和弘 …… 27

——緑の経済成長から持続可能な発展へ——

一 はじめに …… 27

二 環境問題と経済社会の危機——文明史的転換としての地球温暖化問題 …… 30

三 低炭素社会への論点と課題 …… 36

四 緑の経済成長から持続可能な発展へ …… 47

五 環境経済戦略はいかにあるべきか——おわりに代えて …… 54

第三章 社会保障システムの再構築…………… 駒村康平 …… 61

- 一 はじめに―再構築が求められる社会経済システム 61
- 二 グローバル経済のインパクト 62
- 三 格差・貧困の拡大 65
- 四 格差・貧困が社会にもたらすもの 70
- 五 社会保障・税システムの再構築―四つの接続(橋)の設計に向けて 79
- 六 まとめ 89

第四章 「ジョブ型正社員」という可能性…………… 濱口桂一郎 …… 93

―新しい雇用システムのために―

- 一 日本型雇用システムの構造 93
- 二 日本型雇用システムにおける統合と排除 100
- 三 日本型雇用システムとセーフティネット 103
- 四 日本型雇用システムと生活保障システム 106
- 五 日本型雇用システムと教育訓練システム 111
- 六 ジョブ型正社員の構想 114

第五章 ユニバーサル・デザイン社会の提案……………阿部彩……………121

—「貧困」と「障害」を結ぶ社会保障—

- 一 ある野宿者の紹介 121
- 二 障害者政策と貧困政策の接近 123
- 三 これまでの社会的保護 131
- 四 ユニバーサル・デザインな社会的保護 137
- 五 さいごに 145

第六章 学校の役割を再考する……………広田照幸……………151

—職業教育主義を超えて—

- 一 はじめに 151
- 二 職業教育主義 155
- 三 限界 160
- 四 問題点 165
- 五 日本の文脈 169
- 六 最後に 172

第七章 反「小さな政府」論のその先へ…………… 高端正幸 …… 177

——合意的課税が支える強靱な財政システム——

一 問うべきことは何か 177

二 「小さな政府」必要（・必然）論からの解放 179

三 負担をいかに分かち合うか 186

四 財政システムの中長期戦略 196

おわりに——「自壊社会」を越えて…………… 神野直彦 …… 211

用語解説

編者・執筆者紹介

装丁 森 裕昌